

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

乳房再建について

～形成外科で行う乳房再建と地域連携～



2026. 9 Vol.65

- ① 重富副院長挨拶 ② ③ ④ 特集 乳房再建について ⑤ 看護部通信 患者さんに寄り添う手術看護を目指して～手術室から届ける“安心”と“安全”～ ⑥ 地域医療連携ニュース がん相談支援センターは、がん患者サロン レモングラスを支援しています！ ⑦ インフォメーション 感謝状授与式、DMAT活動報告、広報番組放送予定、県民公開講座予定、編集後記
- 外来診察担当医表(別紙)



副院長 重富 充則

しげとみ みつなり

Profile プロフィール

1961年山口市の生まれ。1986年山口大学を卒業後、同大学整形外科入局と同時に大学院に進学。大学院では同種四肢・骨・関節移植につき研究。専門は手外科・肘関節外科・肩関節外科と Reconstructive Microsurgery。大学院修了後は、1992年から Research Fellow としてオーストラリア St.Vincent 病院 Microsurgery Research Centre に留学。帰国後、山口大学整形外科助手、講師、准教授を経て、2012年から山口県立総合医療センター勤務。医学博士、整形外科専門医、手外科専門医・指導医、山口大学臨床教授。山口県の次世代を担う整形外科医を育成する事を密かな楽しみにしている。

4月1日付けで副院長を拝命致しました重富充則です。2012年から山口県立総合医療センターの一員として診療に携わってまいりましたが、このような重責を担う機会をいただき、身の引き締まる思いです。皆様よろしくお願い致します。

私は山口市で生まれ、山口大学教育学部附属山口中学、山口高校、山口大学、そしてそのまま山口大学整形外科科学教室に入局し同大学院へと進学しましたので、大学院を修了後にメルボルンに留学するまでは山口県外に住んだことすら無い根っからの地元民です。

私はこれまで整形外科医として、外傷や運動器疾患の診療に携わり、患者さん一人ひとりに寄り添いなが

ら、安全で質の高い医療の提供に努めてまいりました。その経験を通じて、高度な医療技術はもちろんのこと、患者さんやご家族との信頼関係、多職種が連携するチーム医療の大切さを実感しています。

当院は、「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する」という基本理念のもと、県の基幹病院として高度急性期医療、救急医療、災害医療、周産期医療をはじめとする政策医療を担っています。副院長として、この理念を常に念頭に置き、患者さんに安心と信頼を感じていただける医療の実践に努めるとともに、医療の質と安全の向上、地域医療機関との連携強化、人材育成や働きやす

い職場環境づくりにも力を尽くしてまいります。

医療を取り巻く環境が大きく変化する中、病院に求められる役割はますます重要になっています。職員一人ひとりが専門性を発揮し、互いに尊重し合いながら力を結集できる組織づくりを進め、県民の皆様から信頼され、地域医療を支える病院を目指してまいります。

微力ではございますが、これまで培ってきた経験を病院運営に活かし、県民の健康と生命を守るという使命を果たすため、職員とともに全力で取り組んでまいります。今後とも、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

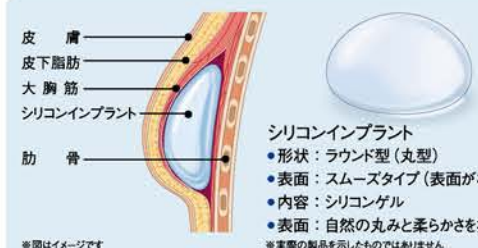
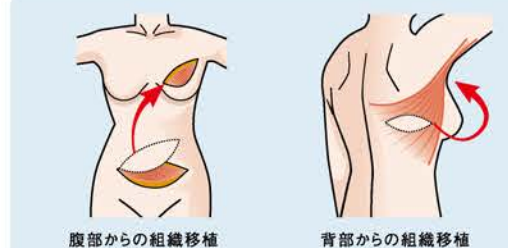
特集 乳房再建について ～形成外科で行う乳房再建と地域連携～

乳がん治療の進歩により、治療成績の向上だけでなく、治療後の生活の質（QOL）を重視した医療の重要性が高まっています。乳房再建は、乳房切除後に失われた乳房の形態を回復することで、整容性の改善のみならず、患者さんの心理的負担の軽減や社会生活への円滑な復帰を支援する治療です。形成外科では、乳房の形態や左右のバランス、瘢痕などにも配慮しながら、一人ひとりの希望や治療経過に応じた再建を行っています。

乳房再建は、乳房切除と同時にを行う「一次再建」と、乳がん治療終了後に改めて行う「二次再建」に大きく分けられます。一次再建は乳房喪失期間がなく、精神的負担の軽減につながることが期待されます。一方、二次再建は乳がん治療を優先し、その後十分に検討したうえで再建を選択できるという利点があります。いずれの方法も適応があり、腫瘍の状態や今後予定される放射線治療・薬物療法、患者さんの全身状態や希望などを総合的に考慮して選択されます。

再建方法は、大きく「インプラント（人工乳房）による再建」と「自家組織による再建」の2つに分類されます。（表1）

表1 インプラント手術、自家組織再建の比較

	人工物	自家組織（皮弁）
種類	エキスパンダーで拡張後、シリコンインプラントに入れ替え（6～12ヶ月待機）  シリコンインプラント ●形状：ラウンド型（丸型） ●表面：スムーズタイプ（表面がなめらか） ●内容：シリコンゲル ●表面：自然の丸みと柔らかさを持つ ※実際の製品を示したものではありません	有茎皮弁もしくは遊離皮弁移植（背部、腹部、大腿部等）  腹部からの組織移植 背部からの組織移植
入院期間	約1週間	約2週間
通院期間	希望の手術終了後も定期検診が必要	希望の手術終了後まで（規定なし）
利点	他部位の犠牲がない。 手術時間、入院期間が短い。	自然な質感。 感染や脱落の心配がない。
欠点	異常発生時（破損、露出、感染、インプラント関連未分化大細胞リンパ腫）は抜去が必要。 健側下垂例では対称性が得られにくい	術後移植組織壊死のリスク。 採取部の合併症（腹部の緩み、瘢痕等）
費用	保険適用 高額医療制度	保険適用 高額医療制度

インプラント再建

インプラント再建では、まずティッシュエキスパンダーと呼ばれる組織拡張器を大胸筋下に留置し、生理食塩水を注入しながら皮膚を徐々に拡張した後、プレストインプラントへ入れ替える2段階の再建が一般的です。自家組織再建と比べると、手術時間が短く、他の身体の部位を犠牲にすることがないため、負担が軽いといった利点があります。

2013年より保険適用となっていますが、施設認定基準を満たした医療機関でのみ施行でき、使用できるインプラントの材質や形も決められています。インプラント再建後は破損や劣化、長期異物留置に伴う合併症への対応のため、定期的な通院が必要となります。

自家組織再建

自家組織再建は、腹部や背部などから皮膚や脂肪を移植して乳房を再建する方法です。代表的な術式として、腹部の組織を用いる深下腹壁動脈穿通枝皮弁移植や背部からの広背筋皮弁移植などがあります。

自家組織による乳房は柔らかく自然な質感が得られやすく、長期的な耐久性に優れることが特徴です。一方で、手術時間や入院期間が長くなること、組織採取部の犠牲、皮弁壊死などのリスクがあります。そのため、年齢、体格、既往歴、生活背景などを踏まえて適応を検討します。

特集 乳房再建について ～形成外科で行う乳房再建と地域連携～



当院形成外科では、乳腺外科をはじめとする関連診療科と連携し、乳房再建に関する診療を行っています。乳房再建を希望される患者さんに対しては、再建方法それぞれの特徴やメリット・デメリット、治療期間、合併症などについて情報共有し、患者さんの価値観やライフスタイルを尊重した治療方針と一緒に考え、患者さんが治療方法に納得していただくことが最も重要と考えています。

乳房切除後に時間が経過した患者さんからのご相談にも対応しており、再建の可否を含めて診察・説明を行っています。

乳房再建は、がん治療を終えた患者さんが自分らしい生活を取り戻すための重要な選択肢の一つです。

地域の先生方におかれましては、乳房再建を希望される患者さんや、興味・不安をお持ちの患者さんがおられましたら、当院形成外科へご紹介・ご相談ください。

今後も地域医療機関との連携を深め、安心して乳がん治療と乳房再建を受けられる医療体制の充実に努めてまいります。

参考文献 1)

森 弘樹 乳房再建手術の歴史、現況と将来展望 日本臨床 82巻 6.2024



日本における保険適用と現況¹⁾

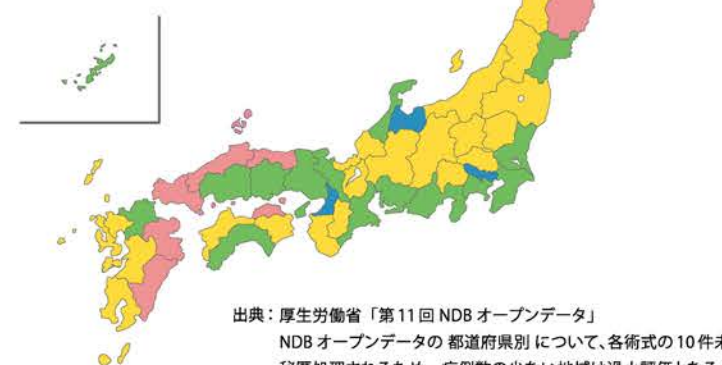
2006年に乳房欠損に対する皮弁再建は保険診療として認められ、2013年にインプラント再建が認められています。

インプラント再建では2019年にインプラント関連未分化大細胞リンパ腫発症に伴い、テクスチャードタイプのインプラントが販売中止となり、現在はスムーズラウンドタイプのものが主に取り扱われています。2020年には遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)症例に対するリスク低減手術と再建にも保険診療が認められています。脂肪注入や乳輪のtattoo再建は、現在自費治療で行われています。なお当院では自費治療は行っておりません。

インプラントが保険適用となってから日本では10年以上が経過していますが、山口県の再建数は最下位に近い件数です。(図1)乳房再建を希望される患者さんの中には、「再建できることを知らなかった」「どこに相談すればよいかわからなかった」という方も少なくありません。そのため、乳がん治療の早い段階から再建について情報提供を行い、形成外科へ相談できる機会を設けることが重要と考えています。

図1
都道府県ごとの乳癌手術数に対する乳房再建率
(2024年の再建率)

- 0%
- 0% <、≤5%
- 5% <、≤10%
- 10% <、≤15%



出典：厚生労働省「第11回 NDB オープンデータ」

NDB オープンデータの都道府県別について、各術式の10件未満は秘匿処理されるため、症例数の少ない地域は過小評価となる。

Message ～メッセージ～



形成外科 診療部長

宮内 律子

(みやうち りつこ)

専門分野

形成外科全般 / 再建外科

資格

日本形成外科学会 形成外科専門医

日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

日本熱傷学会 熱傷専門医

日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医

日本形成外科学会 再建・マイクロサージャリー分野指導医

乳房再建は、日本では2006年に自家組織による再建、2013年には人工物(インプラント)による再建が保険適用となりました。しかし、地方ではいまだ十分に認知されているとは言えないのが現状です。

当院では、自家組織再建、インプラント再建のいずれにも対応しています。再建方法にはそれぞれ利点・留意点があるため、患者さんの希望や生活背景を伺いながら、十分に相談した上で治療方針を決定することを大切にしています。

乳がんと診断されたときは、不安でいっぱいになると思いますが、その後の生活まで見据えた選択肢があることを知っていただき、ご自身に合った治療と一緒に考えていきたいと思っています。当院は、乳房再建の実績がありますのでご相談ください。



患者さんに寄り添う手術看護を目指して ～手術室から届ける“安心”と“安全”～

手術看護認定看護師(特定行為研修修了) 野村 友美

手術は、患者さんの人生の中でも大きなイベントの一つです。手術室は、医師・看護師・臨床工学技士など多職種が連携して成り立つ場であり、安全な医療を提供するという同じ目標をもち、一人の患者さんのためにチームとして協働することが求められます。手術室看護師は其中で、患者さんの不安や緊張を少しでも和らげ、安心して手術に臨んでいただけるよう思いを受け止め、必要な情報をチーム内で共有する橋渡し役としての役割を担っています。

私は、今年度手術看護認定看護師として新たなスタートを切りました。特定行為研修では、医学的視点から患者さんの状態を判断することの重要性を学びました。看護師として自分自身が学び続けることはもちろんですが、スタッフへの指導や相談対応も重要な役割だと感じています。手術室は専門性が高く、日々新しい知識や技術が求められます。だからこそ、学んだことを積極的に共有し、チーム全体で成長していくことのできる環境づくりが必要だと考えます。スタッフが安心して相談できる雰囲気をつくり、疑問や不安と一緒に整理しながら、安全で確実な、そして患者さんの個性をふまえた、より質の高い看護を提供してまいります。

以前、担当させていただいた患者さんより、「手術の前に話をすることができて、声のトーンやペースなどとても安心できました。眠るときに腕をさすってもらったのも今でも覚えています。」と声をかけていただきました。自分の看護が、患者さんの心や身体に寄り添うことができたのかなと感じ、とても嬉しく思いました。患者さんからいただく言葉は、私たちの看護の大きな支えになります。

認定看護師になってまだ日は浅いですが、これまでの手術室看護師としての経験に加え、認定教育や特定行為研修で得た知識や技術を生かしながら、これからも患者さんに寄り添う手術看護の提供をしていきたいと思ひます。



地域医療連携 NEWS

がん相談支援センターは、
がん患者サロン レモンガラス
を支援しています！

山口県立総合医療センターでは、がん患者さんやご家族が、不安や悩みを気軽に語り合える場として、「がん患者サロン レモンガラス」を令和4年4月より開設しております。

当サロンは、同じ立場の方々との交流を通じて、がんに向き合う日々の心の負担を軽くするための温かいコミュニティ空間です。外来や入院中の患者さんやご家族に利用頂き、令和8年3月時点で200名以上の方に利用されました。

ミニ講座について

定期的に、当院の医師や看護師、薬剤師、管理栄養士などの専門スタッフによるミニ講座も開催しており、日々の生活に役立つ情報などを分かりやすく講演しています。

●6月9日(火) ミニ講座を開催しました！

当院の公認心理師による「家族のこころの処方箋」というテーマで、ご家族が患者さんに向き合う時のための内容でした。ロールプレイもあり、具体的に学ぶことができました。

●次回は、10月6日(火) 13時～2階大会議室にて、

当院の理学療法士による、【イキイキ過ごそう！がん治療を支える運動のチカラ～がんサバイバーの体の変化との向き合い方～】を開催予定です。みなさまのご参加お待ちしております！



ピアサポーター(ボランティアスタッフ)について

ご自身のがん治療の経験やご家族としての経験を活かし、患者さんやご家族さまに寄り添う「ピアサポーター(ボランティアスタッフ)」を募集しています。みなさまの貴重な経験を、今悩んでいる方の力に変えてみませんか？

ご関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

がん患者サロン レモンガラス

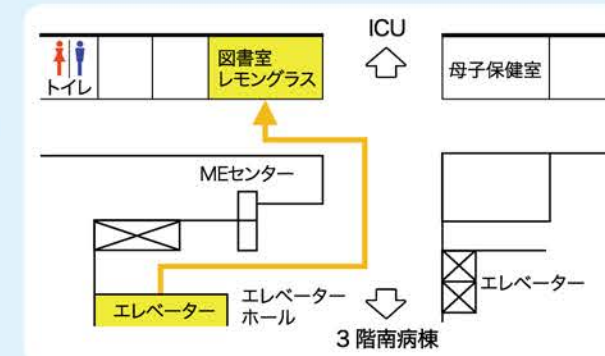
対象者：がん患者さん、ご家族(他院通院中の方も参加可能)

日 時：毎月第1～4火曜日 11時～13時

場 所：山口県立総合医療センター 3階図書室

その他：予約不要。参加費無料。

お問い合わせ：がん相談支援センター TEL 0835-28-8127
(平日8時半～17時15分)





○感謝状授与式 (令和8年6月9日)

「がん患者サロン レモングラス」ではこのたび、サロンの運営に御尽力いただくとともに、多くの患者さんやご家族に寄り添い、アドバイスだけでなく生きる勇気や希望を与えて頂いているピアサポーターの皆さまの功績を称え、院長より感謝状をお渡しいたしました。

○DMAT活動報告

令和8年熊本地震による被災地支援のため、DMATコーディネーションチームとして1名・DMAT3隊・計16名を派遣しました。被災された皆さまに改めてお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。当院は県内唯一の基幹災害拠点病院でもあるため、今後も有事だけでなく、平時からの災害対策活動に力を入れていきます。



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送予定日時	放送内容	出演
10月3日(土) 14:55~15:00	膀胱がんの治療について	泌尿器科 松本 洋明医師
10月7日(水) 16:00頃~		
11月7日(土) 18:55~19:00	人工股関節・人工ひざ関節手術	整形外科 吉田 紘二医師
11月11日(水) 16:00頃~		

過去の放送はこちら!



令和8年度 県民公開講座 開催予定

開催日時	テーマ	講師	開催方法
10月24日(土) 14:00~15:15	てんかんを正しく知ろう ~子どものてんかん・大人のてんかん~	座長 脳神経外科 長網 敏和医師 脳神経外科 藤井 正美医師 京都大学大学院 松本 理器 教授	当院2階 大会議室
12月5日(土) 14:00~15:00	頭頸部がん	頭頸部外科 竹本 剛医師	オンライン
2月6日(土) 14:00~15:00	消化器腫瘍	消化器腫瘍内科 田島 邦彦医師 外科 原田 栄二郎医師	院外(※調整中)

お知らせ

今年度の県民公開講座は、院内での「集合型とWeb参加型のハイブリッド式」または「オンライン」での開催に加えて、「院外」での開催も予定しています。日程により開催方法が異なりますのでお気を付けください。

受講料
無料

編集後記

乳

房再建について先生とお話を伺う中で、治療の選択肢が広がっていること、そして患者さん一人ひとりに寄り添った再建が大切にされていることを改めて感じました。専門的な内容を分かりやすく伝えてくださった先生の言葉から、再建が「治療の続き」だけでなく「生活を取り戻すための支え」でもあることが伝わってきます。今回の特集が、治療を考える方や支える方にとって、安心して情報に触れられるきっかけになれば幸いです。(総務課H.Y)

当院の

Instagramは
こちら!
お気軽にフォロー
してください。



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する。

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymghp.jp/>